

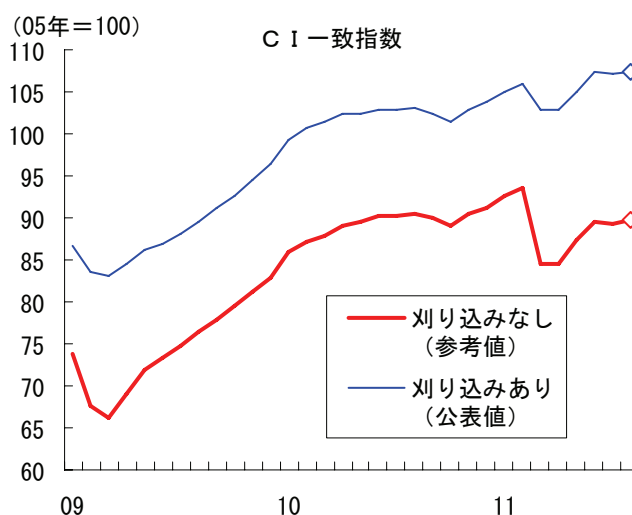
テーマ：景気動向指数（2011年8月）の予測**発表日：2011年9月30日（金）****～景気の改善ペースは明確に鈍化～**

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

内閣府から10月7日に公表される2011年8月の景気動向指数では、C I一致指数は前月差+0.4ポイントが予想される。2ヶ月ぶりの上昇ではあるが、7月の同▲0.3ポイントと均してみれば、ほぼ横ばいにとどまる形である。C I一致指数は5月に同+2.3ポイント、6月に同+2.3ポイントと急回復していたが、足元では改善ペースの鈍化が明確になってきた。一致指数の内訳では、鉱工業生産財出荷指数、中小企業売上高、有効求人倍率等のプラス寄与が大きい一方、小売業販売額や大口電力使用量などが押し下げ要因になる見込みである。なお、C Iの公表値よりも景気の実態をより正確に示していると考えられる「刈り込みなし」の系列についても、8月は前月差+0.4ポイントが予想される。

サプライチェーンの復旧を背景とした生産の急回復局面がほぼ終了したことに加え、需要の伸びが限定的なものにとどまっていることが、足元のC Iの足踏みに繋がっている。また、先行きについても、海外経済の減速、円高の持続などの悪材料の存在を考えると、景気の改善ペースはさらに鈍化する可能性があり、海外景気次第では下振れも十分考えられるだろう。

なお、内閣府によるC I一致指数の基調判断は「改善を示している」が維持される可能性が高い。また、8月のC I先行指数は前月差▲0.9ポイントと、4ヶ月ぶりに低下するとみられる。



（出所）内閣府「景気動向指数」。直近の値は第一生命経済研究所による予測値